

原田 PJ と中林 PJ、夢のコラボレーション！

「みんラボ」で「歩行補助車」の使いやすさを検証・討論しました

平成 25 年 3 月、富山県富山市で活動する「社会資本の活性化を先導する歩行圏コミュニティづくり」プロジェクトの中林美奈子先生（富山大学大学院医学薬学研究部 准教授）が、茨城県つくば市を訪れました。「高齢者による使いやすさ検証実践センターの開発」プロジェクトの原田悦子先生（筑波大学大学院人間系心理学域 教授）が開設した『みんラボ（みんなの使いやすさラボ）』で、中林プロジェクトが開発している歩行補助車の使いやすさを検証・討論するためです。

「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」研究開発領域初の、領域内の二つのプロジェクトのコラボレーション企画の様子を報告します。

■モノの使いやすさを高めるためのワークショップ開催

春の強風が吹き荒れる平成 25 年 3 月、つくばサイエンス・インフォメーションセンターに、27 名の高齢者の方が集まりました。原田 PJ がつくば市に開設した「みんなの使いやすさラボ（通称：みんラボ）」の登録会員の方たちです。



中林 PJ が開発中の歩行補助車。みんラボのボランティア会員の方が使い勝手を試す

この日開催された「みんラボカフェ」は、「モノの使いやすさ力を高める」ことを目的に、モノの作り手側の話を聴き、実際のモノに触れ、使いやすさや利用方法についてのディスカッションを行うワークショップです。今回の対象は、中林 PJ が開発中の歩行補助車（左の写真）。領域で活動する全てのプロジェクトが一堂に会する全体会議で原田先生と中林先生が意気投合、この企画が実現しました。

まず最初に中林プロジェクトが取り組みや歩行補助車について説明を行いました。高齢者は身体が弱るにつれて外出の意欲も下がり、家の中にこもりがちになります。中林 PJ は、富山大学が産学連携で開発中のこの歩行補助車を、個人で使うだけでなく、公共の歩行支援ツールとして街の中に置き、お年寄りに積極的に街に出てたくさん歩いてもらうことで虚弱化を予防し、同時に街を活性化させることを目指しています。

「富山には中心市街地 15 か所に市営のレンタル自転車ステーションがあります。舗道に並ぶ青いレンタル自転車の横にこの赤い歩行補助車を置くのが夢です」（中林先生）

■利用者としての目線に立った熱心な質問が相次ぐ

「車に載せることはできますか？」「簡単に折りたためます。やってみますね。」

いよいよ歩行補助車の検証タイムが始まりました。会場の中央に 4 台、富山から運ばれた歩行補助車が置かれ、会員の方たちは自由



最新の試作機。スタッキング（積み重ね）や買い物を入れる大きなかご、ベルなど公共的な場所での使用を意識して改良

（右）検証タイムは約 20 分間。ボランティア登録会員の方々が熱心に補助車の形態や利用方法、使いやすさを試している



（左）質問に答えて歩行補助車を折りたんでみせるプロジェクトメンバーの河原先生（富山大学芸術文化学部 准教授）

に試すことができます。押してみたり、腰かけてみたり、荷物をかごに置いてみたり、会員同士でいろいろ話をしながら使いやすさを確かめ、質問には中林 PJ のメンバーが丁寧に答えていきます。

ディスカッションでは「販売予定価格は」「家の中で置き場所に困らないか」「エスカレーターに乗れるのか」「カーボンファイバーなどの素材を使えばもっと軽くて丈夫なのでは」など、利用者の目線からの熱心な質問や意見が相次ぎました。最後に全員がアンケートを記入し、1 時間半にわたる「みんラボカフェ」は終了しました。



『モノの使いやすさ力を高める！』という目的のもとお集まりいただいたみなさんは積極的に熱意を持って参加してくださいました。ご意見を活かし、改良を加えていきます」（中林先生）。コラボ企画で両プロジェクトが得たものは、さらに次のステップへと続いていきます。



原田悦子先生（左）と中林美奈子先生（右）